



歯根呼吸治療における、新材料MTA

徳島大学病院 むし歯科 松尾 敬志 まつお たかし

■問い合わせ むし歯科診療室 Tel.088-633-7371

■覆髄材としてのMTA

MTA (Mineral Trioxide Aggregate)とは、1990年初頭に登場した歯科用覆髄材料です。むし歯に侵された部分を削って取る際、歯の神経(歯髄と言います)の部分に接近した場合、後に歯髄がだんだんと死んでしまうケースが多くあります。それを防ぐため、傷んだ歯髄を保護しなければならないのですが、その際使われるのが覆髄材というものです。水酸化カルシウム製材が覆髄材としてよく使用されていますが、これはPHが高いため、詰めた時、周辺の細胞が死んでしまい、細胞の再生を待たなければなりません。また水にも弱く、唾液や血液など水分があると、劣化したり、硬化せず歯に密着しないという欠点もあります。MTAは組織親和性(適合性)を持っているため、細胞にダメージを与えることはありません。また、MTAは水で練って固まるため、水分による影響を受けません。

■歯根吸収治療にも使用が可能

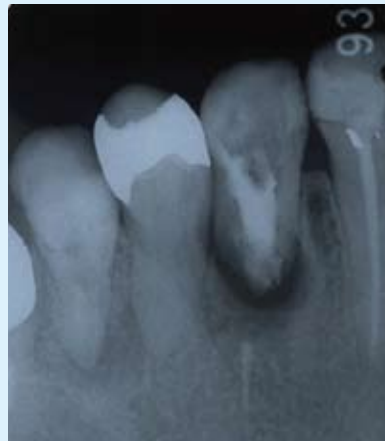
歯根吸収が起こった場合、抜歯しなくてもMTAを使用することで治療できることが分かりました。感染により、歯髄も死んでしまい、歯根吸収が起こったケースも、歯髄部分にMTAを詰めることで歯が固定され、治療できるのです。特に、歯根吸収の場合、奥まで詰めるのではなく、途中で止めなければならないのですが、MTAだと先に述べた特徴により、途中で止める詰め方も可能で、そのままその場所できちんと硬化して安定してくれるのです。



▲歯根吸収の治療にMTAを利用した例。上側からMTAを歯髄につめている様子。

■MTAの使用現状

本院では、1年程前から使用されています。覆髄材としては保険適用ですが、その他の治療で使う場合は私費となります。高額なためまだ一般的には流通しておらず、一部の専門家のみ使用しているのが現状です。ですが効果は認められるものなので、今後、新たな治療材料として検討範囲に加えられることと思われます。



▲歯髄にMTAを詰めて治療した際のレントゲン写真。必要部分にうまくMTAが充填されている。